

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年四月度 入選句（投稿総数千二百六十三句・小中学投句数四百五十三句）

### 特選

選者 説田 祐子

卒業生旅立つ背中たくましく 美濃加茂市 柘植 雄大(中三)

作者は中学二年生の三月に卒業生を送ったのですね。その卒業する上級生の姿を見て、「旅立つ背中たくましく」と感じた作者の見方、感じ方が素晴らしいです。

よく「人の後ろ姿に学べ」ともいわれますが、この句にはその言葉通り作者の人に対する見方考え方が表れています。作者も卒業する時期が来たら背中にもたくまじさが宿り、その後ろ姿を残して旅立つことでしょう。

桜咲き笑顔も咲いて満開に 美濃加茂市 木股 紗弥(中三)

今年も桜満開の便りがあちらこちらから届きました。大垣の奥の細道むすびの地の桜も満開で連日大勢の人で賑わっていました。桜の様子を詠んだ句はたくさんありますが見ている人の顔に視線を当て「笑顔も満開」と言い切っているところがいいですね。この句を読んでいると読者も満開の桜を見ているような気持ちになります。

花びらがちって僕らを祝ってる 美濃加茂市 村瀬 大知(中三)

満開の桜の時期も過ぎて花吹雪の頃になったのですね。桜の時期、学校では卒業式や入学式があり、大人の社会でもいろいろなお祝い事が多くある時期です。作者は中学三年生になったのですね。そんなときに桜の花びらが降りかかったのでしょうか。花吹雪を受けて「僕らを祝ってる」ととらえられたのは嬉しいことです。それも自分だけではなく「僕らを」と感じたところがいいですね。

### 秀逸

卒業しあらたな道へまた挑戦 美濃加茂市 成田 秀真(中三)

春の昼わずかな眠りで夢を見る 美濃加茂市 渡辺 留妃(中三)

夢を追い踏み出す一歩巢立ちの日 美濃加茂市 谷口 彩乃(中三)

庭の木に優しい色の新芽たち 美濃加茂市 渡辺 愛翔(中三)

教室の窓から桜の雨がふる 美濃加茂市 河方 陽南(中三)

卒業しさみしくなった空き教室 美濃加茂市 服部 琴葉(中三)

満開の桜の花は笑顔生む 美濃加茂市 真鍋 百永(中三)

学校がさみしくなった卒業式 美濃加茂市 吉田 楓(中三)

がんばろう伸びたつくしを見て思う 美濃加茂市 片田 雄大(中三)

蒲公英に思い出のせて歩き出す 大垣市 高木 ひなた(中二)

入選

さくらから桃色の雨降りそそぐ 美濃加茂市 岩永 正徳(中三)  
 春つぼみ夕暮れの日日照らされる 美濃加茂市 中島 千尋(中三)  
 卒業は笑顔で君をおくり出す 美濃加茂市 前川 怜香(中三)  
 旅立ちの時期物語る桜の花 美濃加茂市 原 綾 佑(中三)  
 扉開け桜の香りを追いかける 岐阜市 三輪 舞香(中三)  
 桜咲きとなりはない君探し 美濃加茂市 長瀬 右京(中三)  
 進級し新たな仲間と歩んでく 美濃加茂市 石川 ダニエル(中三)  
 新入生ぶかぶか制服可愛いなあ 美濃加茂市 山田 凌平(中三)  
 たらい舟桜色の川をゆるやかに 美濃加茂市 三宅 花(中三)  
 桜舞う新たなクラス心舞う 美濃加茂市 永原 愛海(中三)

入選

新年度制服の丈伸ばしゆく 美濃加茂市 柘植 幹大(中三)  
 春の風優しさ包んで続いてく 美濃加茂市 藤吉 優奈(中三)  
 桜道君と歩いた記念日へ 美濃加茂市 中西 詩織(中三)  
 わた毛とぶはるくるしょうこあったかい 大垣市 川瀬 夢華(小二)  
 ふえていた畑の草も春休み 愛知県一宮市 菊池 海音(小三)  
 灯があたりさくらをほめる祖父の顔 大垣市 平田 ひなの(小六)  
 満開だ桜の下をぬけて行く 大垣市 多賀 千夏(九才)  
 ふわふわなさくらのじゅうたん一本道 大垣市 山田 芽維(小四)  
 たんぽぽのふわふわとんでおひっこし 大垣市 恩田 かな子(小二)  
 ほうほけきよひにひにじょうずはるよこい 大垣市 古川 葵(小二)

選者吟

初つばめ木曾三川を跨ぎ飛ぶ 柘子